



研究者 北川裕之（伊那市立伊那東小学校）

共同研究者 佐藤和紀（信州大学 准教授）

### テーマ

学習の個性化と協働的な学習の一体化  
～与えられた問いから自ら見つけ出した問いへ～

## 学び方を選択する機会を増やすために

子どもたちが学ぶことを楽しみ、考えを深めるためにはどうしたらいいのだろう。共同研究者の佐藤和紀先生、本校の部会メンバーと共に研究を進めていく中で改めて感じた疑問です。現時点で、私たちが見出した答えは、「子どもが学び方を選択する機会を増やしていく」ことです。個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図る授業を通して、自ら学び方を選択し、学ぶことの楽しさを実感できる授業を目指し、研究を進めています。そのために、一学期から取り組んでいる事が2つあります。モニタリングとアセスメントの実施と課題解決のための手引き作成です。継続してきた結果、子ども同士が学習進度を把握し合い、自分のタイミングやペース、自分の学び方の特徴・特性に応じて、その時点での学習の到達先を据えたり、そのための学習目標を選択したり、より良い学習方法を選択するなどして、過去の自分たちよりも成長できるように相互評価していく姿が多くみられています。二学期に入り、課題解決のための手立ての一部を子どもたちに提示してはいますが、子どもによっては自ら最適な学び方を見つけて出しています。また、そのようにして歩んできた学び方を振り返り、新たな学びに活かそうとする姿も見られるようになりました。自らの学び方を友と比べたり共有したりすることを通して関わり合い、協働的な学びといえる姿も見られるようになってきています。今後の取り組みとしては、ループリックの作成とパフォーマンス課題について研究していく必要があります。ループリック作成において、その単元でねらう学習目標がわかり、さらにその目標までの学びの歩みがどうなっていくと良いのかを考える必要があります。パフォーマンス課題においては、自らの中に本当の意味での問いをもっているのか、さらにどのレベルまでのパフォーマンスを求めているのか求められているのか教師が吟味していく必要があります。研究大会では、子どもたちが計画した学習過程をもとに、自ら学び方を選択し、子どもが学ぶことの楽しさを実感する授業を見ていただきたいと思います。



共同研究者 佐藤先生から

子どもが自ら進めていく学習に取り組んでいくと、「暇そうな子どもがいなくなった」「自分のペースやタイミングで進めることで、子ども自身が個性に気がつき始めた」という意見が聞かれるようになります。授業者が、以前とは何が違うと感じるようになったのか、その感覚に期待しています。

### ～日程～

- ① 開会行事（研究説明）  
13：15～13：30
- ② 授業公開 13：40～14：25
- ③ 座談会（事前の支援シートをもとに個の学びについて）  
14：40～15：30
- ④ ワークショップ  
佐藤和紀先生「個別最適な学び・協働的な学びとは？～授業を通して考えてみよう～」 15：45～16：30
- ⑤ 閉会行事 16：30～16：45